

不登校からデイケア通所を通し大学受験に挑戦

札幌太田病院 思春期デイケア課

○板谷 光¹⁾遠藤 麻子²⁾植木 達也³⁾篠田 真弓⁴⁾藤本 芙美子⁴⁾北島 朝子²⁾羽鳥 純史⁶⁾
精神保健福祉士¹⁾看護師²⁾作業療法士³⁾心理士⁴⁾医師⁶⁾

1. はじめに

不登校の高校生が入院治療を経て、デイケアに通い農業をしたいという希望を見出し高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）の取得、大学受験を通して社会スキルを身につけていった経過を報告する。

2. 症例紹介

10 代男性、両親、弟と同居。X-1 年 6 月（高校 2 年時）、クラス内で自分の意向が通らなかったことで、教室から動けなくなってしまい、父に自宅に車で連れ帰られた。同月、学校側より事実上転校を言い渡される。昼夜逆転・不登校となり、X 年 7 月初診。不登校、広汎性発達障害との診断にて、同年 8 月入院し、内観療法中心とした診療を受ける。X 年 10 月からデイケアに通所開始となる。

3. 治療経過

通所当初、自分の将来や入院理由等の開かれた質問に、沈黙し返答が難しく、相手に合わせた言葉遣いや場面に合ったコミュニケーション能力の向上が課題であった。野球が好きだったため、始めはソフトボールプログラムがある週 3 回の通所から開始。デイケアにも慣れ X+1 年 1 月から週 5 日の通所になり、ソフトボールではキャプテンを務めた。徐々に将来について考えるようになり、農家を営んでいる祖父の影響から農業を希望するようになった。進学し農業の知識を学ぶよう父から勧められ大学進学を目指すようになる。しかし、高校を中退していたため、まず高卒認定の取得を目指した。X+1 年 3 月から当院の院内学校に参加し X+1 年 9 月に高卒認定取得。並行して対人関係については X+1 年 12 月から思春期を対象にした院内の社会生活訓練（SST）に参加しコミュニケーションスキルを学んだ。X+2 年 2 月に大学を受験した。

4. まとめ

進路については、転校は出来なかったが、就農するという目標を設定することが出来、そのために高卒認定資格を取得し大学進学という方向性が固まった。大学受験は不合格となったが、アルバイトをして予備校に通いたいという新たな希望をもてるようになった。対人関係については、「相手を名前と呼ぶ」、「です、ます調での会話」ができるようになり改善がみられた。大学進学という目標が明確になったため、不明点を電話で確認したり、お世話になった人にお礼状を送付するといった社会スキルを学びつつ大学受験に挑戦することが出来た。また、ソフトボールでキャプテンを務めることで、人前で話したり言葉遣いを意識する機会が得られた。しかし、現在も謝罪や感謝の気持ちをうまく伝えることが出来ないこともあり、SST の継続が必要と思われる。